

「夢と自立へ一歩前進」

令和6年7月19日 15号

文責 進路指導主事 岸谷

71日間あった1学期で、それぞれの夢と自立に向けて何歩前進しましたか？今年度初めと、今週に行った「キャリア教育の資質能力に関するアンケート」の結果で、特に気になった項目を下の表にまとめました。**この結果から、「自分たちはどこが成長したのか？どこが課題なのか？」**と考えることもみなさんの成長につながります！

質問項目	学年	4月	7月
あなたは、どの程度「実行力（計画だけで終わらない、口先だけで終わらない）」がありますか？ → 実行力がある+まあまあある	1年生	87%	80%
	2年生	38%	31%
	3年生	53%	33%
あなたは、どの程度「論理的思考力（筋道を立てて考える、要点をまとめる）」がありますか？ → 論理的思考力がある+まあまあある	1年生	47%	87%
	2年生	63%	75%
	3年生	47%	33%
あなたは、どの程度「創造力」がありますか？ → 創造力がある+まあまあある	1年生	67%	67%
	2年生	38%	50%
	3年生	42%	63%

数値が上昇したものは青、数値が下降したものは赤

「進路情報チェック板」



□高校の「オープンスクール」は、制服で参加しましょう。

□自分が「オープンスクールに参加する高校のHP」は、定期的に

チェックしましょう！特に、オープンスクール前日と当日には

必ず確認しましょう！

※裏面に、夏休み中に気をつけてほしいことに関する新聞記事を載せているので、確認をお願いします。2学期の始業式で、元気なみなさんに会えることを楽しみにしています。今日の集会で伝えたとおり、「**これくらいなら大丈夫だろう**」という気持ちと戦いながら、**安全第一・健康第一**で過ごしてください。

夏休み 子どもの熱中症に注意を



【図1】熱中症の応急処置

夏休み期間中は、気象庁の発表や、各地の気象情報に注意し、熱中症の発生に注意を払う必要がある。熱中症は、高温多湿の環境で長時間過ごすことで発生する。熱中症の症状は、めまい、吐き気、頭痛、意識障害などがある。熱中症の応急処置は、涼しい場所に移動させ、水分を補給することである。また、熱中症の予防には、涼しい服装を着用し、帽子をかぶり、水分をこまめに補給することが大切である。

小まめな水分補給と休憩が大切

熱中症の発生は、高温多湿の環境で長時間過ごすことで発生する。熱中症の症状は、めまい、吐き気、頭痛、意識障害などがある。熱中症の応急処置は、涼しい場所に移動させ、水分を補給することである。また、熱中症の予防には、涼しい服装を着用し、帽子をかぶり、水分をこまめに補給することが大切である。



熱中症の発生は、高温多湿の環境で長時間過ごすことで発生する。熱中症の症状は、めまい、吐き気、頭痛、意識障害などがある。熱中症の応急処置は、涼しい場所に移動させ、水分を補給することである。また、熱中症の予防には、涼しい服装を着用し、帽子をかぶり、水分をこまめに補給することが大切である。

熱中症の発生は、高温多湿の環境で長時間過ごすことで発生する。熱中症の症状は、めまい、吐き気、頭痛、意識障害などがある。熱中症の応急処置は、涼しい場所に移動させ、水分を補給することである。また、熱中症の予防には、涼しい服装を着用し、帽子をかぶり、水分をこまめに補給することが大切である。

熱中症の発生は、高温多湿の環境で長時間過ごすことで発生する。熱中症の症状は、めまい、吐き気、頭痛、意識障害などがある。熱中症の応急処置は、涼しい場所に移動させ、水分を補給することである。また、熱中症の予防には、涼しい服装を着用し、帽子をかぶり、水分をこまめに補給することが大切である。

熱中症の発生は、高温多湿の環境で長時間過ごすことで発生する。熱中症の症状は、めまい、吐き気、頭痛、意識障害などがある。熱中症の応急処置は、涼しい場所に移動させ、水分を補給することである。また、熱中症の予防には、涼しい服装を着用し、帽子をかぶり、水分をこまめに補給することが大切である。

熱中症の発生は、高温多湿の環境で長時間過ごすことで発生する。熱中症の症状は、めまい、吐き気、頭痛、意識障害などがある。熱中症の応急処置は、涼しい場所に移動させ、水分を補給することである。また、熱中症の予防には、涼しい服装を着用し、帽子をかぶり、水分をこまめに補給することが大切である。

熱中症の発生は、高温多湿の環境で長時間過ごすことで発生する。熱中症の症状は、めまい、吐き気、頭痛、意識障害などがある。熱中症の応急処置は、涼しい場所に移動させ、水分を補給することである。また、熱中症の予防には、涼しい服装を着用し、帽子をかぶり、水分をこまめに補給することが大切である。

熱中症の発生は、高温多湿の環境で長時間過ごすことで発生する。熱中症の症状は、めまい、吐き気、頭痛、意識障害などがある。熱中症の応急処置は、涼しい場所に移動させ、水分を補給することである。また、熱中症の予防には、涼しい服装を着用し、帽子をかぶり、水分をこまめに補給することが大切である。

熱中症の発生は、高温多湿の環境で長時間過ごすことで発生する。熱中症の症状は、めまい、吐き気、頭痛、意識障害などがある。熱中症の応急処置は、涼しい場所に移動させ、水分を補給することである。また、熱中症の予防には、涼しい服装を着用し、帽子をかぶり、水分をこまめに補給することが大切である。

高校生以下の死傷者数 8月が最多

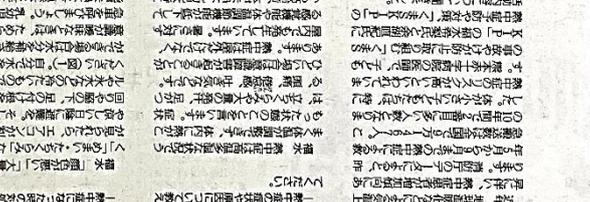
【図2】高校生以下の死傷者数(2019-23年8月)



【図3】全国の熱中症による緊急搬送者数推移



【図4】全道別のSNSに起因する事件・被害別別



児童ポルノ被害が最多 全体の35%

【図5】児童ポルノ被害が最多 全体の35%

児童ポルノ被害は、児童ポルノの制作・流通・所持・閲覧などによって発生する。児童ポルノ被害は、児童の身体的・精神的健康に深刻な影響を与える。児童ポルノ被害の予防には、児童ポルノの制作・流通・所持・閲覧を禁止する法律の整備と、児童ポルノ被害の被害者に対する支援の充実が大切である。

水辺ではライフジャケット着用を

水辺でのレジャー活動は、家族や友人と楽しむ大切な時間である。しかし、水辺での事故は、命を奪ってしまう可能性がある。水辺での事故を防ぐためには、ライフジャケットを着用することが大切である。ライフジャケットは、水中で溺れた際に浮力を保ち、救助を待つ時間を稼ぐことができる。ライフジャケットの着用は、水辺での安全を守るための大切な手段である。

子どもの交通事故防止 小学生向け 教室を開催

【図6】子どもの交通事故防止 小学生向け 教室を開催



【図7】水辺での危険な行為

水辺での危険な行為は、命を奪ってしまう可能性がある。水辺での危険な行為には、水辺に近づきすぎる、水辺で遊ぶ、水辺で泳ぐなどがある。水辺での危険な行為を防ぐためには、水辺での危険な行為を禁止する法律の整備と、水辺での危険な行為に対する教育の充実が大切である。

水難事故

水難事故は、水辺での事故の一種である。水難事故は、命を奪ってしまう可能性がある。水難事故の予防には、水辺での危険な行為を禁止する法律の整備と、水難事故の被害者に対する支援の充実が大切である。

水難事故

水難事故は、水辺での事故の一種である。水難事故は、命を奪ってしまう可能性がある。水難事故の予防には、水辺での危険な行為を禁止する法律の整備と、水難事故の被害者に対する支援の充実が大切である。

水難事故は、水辺での事故の一種である。水難事故は、命を奪ってしまう可能性がある。水難事故の予防には、水辺での危険な行為を禁止する法律の整備と、水難事故の被害者に対する支援の充実が大切である。

水難事故

水難事故は、水辺での事故の一種である。水難事故は、命を奪ってしまう可能性がある。水難事故の予防には、水辺での危険な行為を禁止する法律の整備と、水難事故の被害者に対する支援の充実が大切である。

未成年を危険から守るキャンペーン 2024・夏 「守る」熊本のカムフラージュ